

令和7年度の市政変革の取組み

1 集中変革期間初年度(令和6年度)の取組み

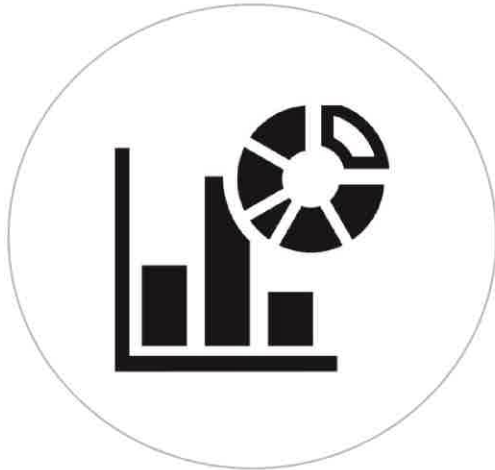
集中変革期間初年度の令和6年度は、事業や制度の「固まり」での改革案を検討する「経営分析・事業分析」を中心に、「局区X方針」、「プラチナ市役所プロジェクト」の3本柱で取り組んだ。その進捗状況は、公開の「X会議」で市民への開かれた議論を行った。

各局区による改革案磨き上げの場 **X会議**



局区X方針

各局・区長等が、経営者目線で自律的な改革の方針を定め、組織内外に発信する



経営分析・事業分析

施策・事業等のまとまりごとに現状分析や課題の洗い出しを行い、改革の方向性を検討(R6年度は37クラスター)



プラチナ市役所プロジェクト

職員のアイデアを生かし、“働きやすさ”と“働きがい”の実現や、変革の風土醸成を図る

2 令和6年度の取組みの振り返り

市役所全体の成果

1 利用者目線での施設の点検・改善など、現場の業務改善(Aレベル)は全庁的に取組みが進行。

- ・漫画ミュージアムにおける施設改善プロジェクト
- ・八幡東区役所の「感動区役所」 など

2 全庁横断的な視点が必要な「公共施設マネジメント」「政策連携団体」について、新たな考え方を提示。

- ・供給者目線「総量」→ 利用者目線「施設最適化」
- ・管理対象「外郭団体」→ パートナー「政策連携団体」

3 プラチナ市役所PJでは、若手・現場第一線職員の発案により、職員の意欲向上につながる見直しが実現。

- ・“週休3日制”が可能なフレックスタイム制の全面試行
- ・本庁舎における女性用トイレの増設 など

今後の課題

本質的な課題認識に基づく改革(BCレベル)は、具体化の途上にある。
※R6X会議では保育所、子育て、公園、文化、スポーツ、環境施設、区役所を議論

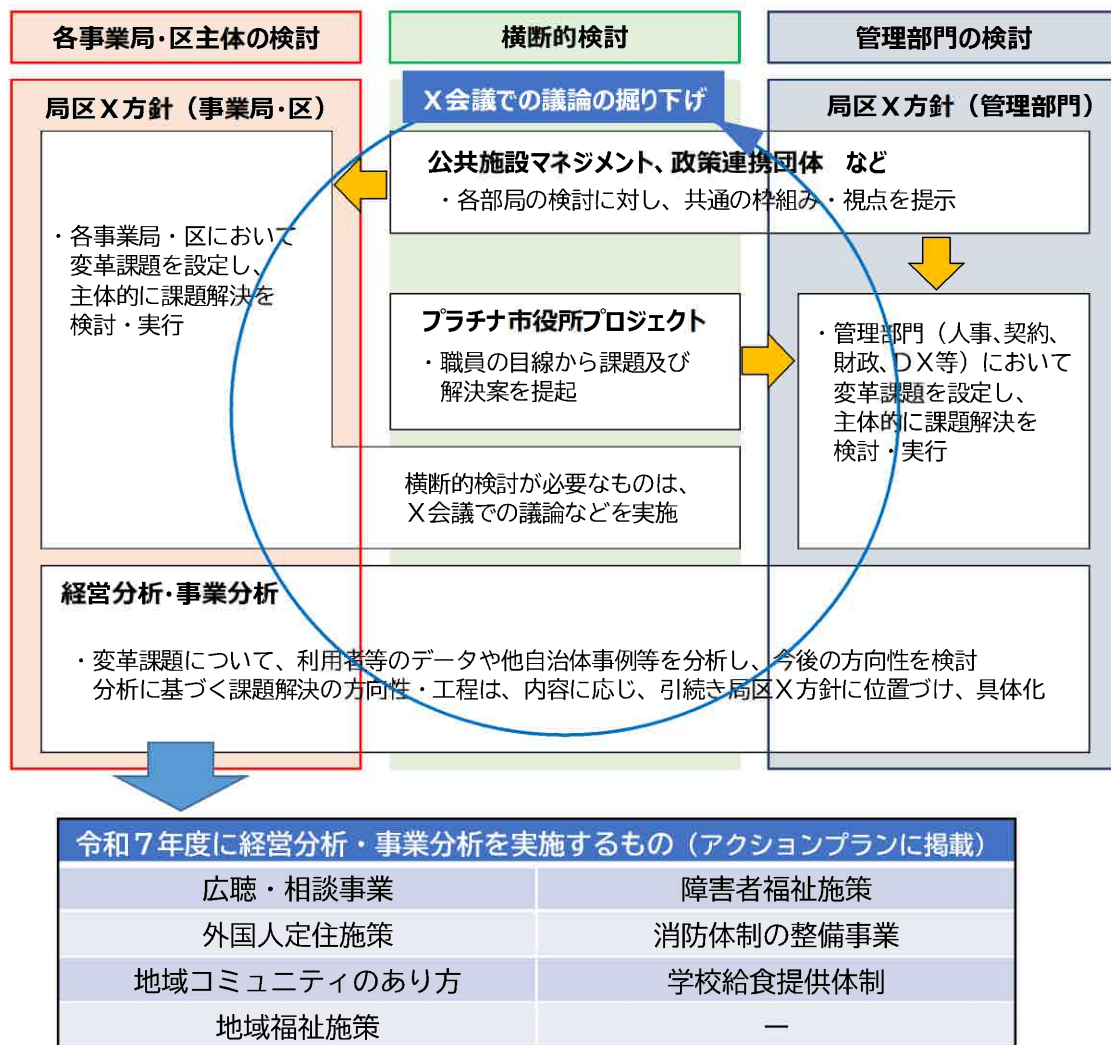
新たな考え方に基づき、公共施設や政策連携団体の個々のあり方を具体化していく必要がある。

「職員の意欲向上」でとどまらず、その先にある「市民サービスの質の向上」の実現が重要である。

(事務局の1年間の振り返り)

「創る改革」には、「ユーザー目線（市民に何を提供するのか）で課題を掘下げ」「予断を持たず他自治体等の事例を把握」「民の力・ノウハウを徹底活用」といった視点が必要。これらの視点で分析・検討が行われるよう、様々な機会をとらえて各局区に働きかけを行わなければならない。

3 令和7年度の市政変革の進め方



以上を踏まえ、令和7年度は次の点を念頭に取組みを進める。

- ① 局区X方針では、昨年度の検討・議論を踏まえた本質的な課題設定を徹底。
経営（事業）分析は、他都市事例との比較など分析要素が大きいものを中心に実施。
- ② 「公共施設マネジメント」「政策連携団体」の取組みをさらに具体化して実行。
このほか全庁横断的テーマをX会議で議論。
- ③ プラチナ市役所プロジェクトは「ユーザーの困りごと」をテーマに加え、「サービスマネジメント」の視点で業務改革を促進。
- ④ X会議では、昨年度のX方針・経営分析で着手した取組みも議論し、本質的な課題解決を促進（リーディングケースも発信）。

4 スケジュール(予定)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月以降
X会議	第1回 5/23		第2回 7月上旬	第3回 8月下旬		第4回 10月下旬	第5回 11月下旬	第6回 1月下旬
局区X方針	・R6の振り返り ・R7課題の検討・設定 → ・R7局区X方針の公表 ← ・進捗状況を適宜X会議で報告 →							
経営分析 ・ 事業分析	・経営分析・事業分析に着手 ・担当部局と市政変革室のMTG ・R6分析報告書の公表(5/23) ← ・経営分析・事業分析の経過報告や、分析を踏まえた改革の方向性を、適宜X会議で報告 → ・経営分析・事業分析の最終報告							
プラチナ市役所プロジェクト	・P Tの 人選・結成 ← ・P Tによる 課題の洗い出し ・制度所管局で解決案の検討 → ・進捗状況報告 ・成果の発表（年度末）							